

医療従事者への 誹謗中傷やめて

県内病院で発生した新型コロナウイルスのクラスター(感染者集団)に関し、県医師会の小玉弘之会長は16日、「医療従事者への差別行為や誹謗中傷がやまない」として防止を呼び掛けた。

県内では先月、市立秋田総合病院(秋田市)と市立天森病院(横手市)でクラスターが発生。病院関係者によると「院内に入っただけで感染する」などの誤った情報が広まったほか、「どうして医療関係者の家族がスーパーに買い

県医師会が呼び掛け

物に行くのか」といった苦情が寄せられたという。

小玉会長は16日の記者会見で、住民から病院にクレームが寄せられる例などがあつたとし「院内感染が起きると、医療機関が悪いという意識を持たれる。医療機関も被害者であり、悪いのはウイルスだ」という点を認識してほしい」と強調した。

新型コロナウイルスのワクチン接種開始に備え、県医師会と県看護協会、県歯科医師会、県薬剤師会が協定を結んだことも

報告。「全ての医療従事者が総出で接種に取り組む。県民には安心して受けてほしい」と述べた。

県医師会は今後、誹謗中傷防止のメッセージを込めた缶バッジを作り医療機関や学校に配る。この日は秋田市の飲食店チエーン、ドリームリンク(村上雅彦社長)が昨年6月11月にJR秋田駅前に開いた「復興支援酒場」の売り上げの一部50万円を同会に寄付しており、缶バッジは寄付金を元に作る予定。(三浦ちひろ)